

中国の留守児童と出稼ぎ労働者——フィールドワーク 1 年目の総括

登坂 学

Research on the Left-behind Children and Migrant Workers in China — The First Summary of Field Work

Manabu TOSAKA

Abstract

This paper forms part of the Grant-in-Aid (for Challenging Exploratory Research) topic “Research on the Left-behind Children in Chinese Agricultural Villages and Educational Discrimination” (21653095). The second section gives cases of the lifestyles of left-behind children based on a field study carried out in Hunan. The third section investigates where the parents of the children introduced in the second section are and what kind working environment they are in, based on a field study in Zhejiang. This is because living in this kind of environment with their parents who work away from home forms who they are, and this is connected with their own philosophy on child education. Section 4 examines the child education philosophy from this perspective, based on a survey of migrant workers conducted in Zhejiang. The survey has only just begun, so it is by no means qualitatively or substantively complete. Therefore, this paper is considered an interim report. Through this paper, we will discover that the lives of the left-behind children and their parents who work away from home are connected to our own lives in a surprising way. In this sense, the problem of left-behind children in China is not a story far away from home.

Key words : Left-behind Children, migrant workers, field study

キーワード : 留守児童 出稼ぎ労働者 フィールドワーク

2010.12.15 受理

1. はじめに

インターネット上の論壇において留守児童の話題が取り上げられるとき、たびたび網民（ネットユーザー）に引用される曲がある¹⁾。

【資料 1】

留守的孩子——母を待つ子²⁾

院中枣树 树叶又落下

（お庭のナツメの 葉がまた落ちる）

把那最甜的红枣想留给妈妈

（あのいちばん甘い実をかあさんにとっておくの）

坐在门前 不想说话

（門の前に座って 黙りこむ）

哦，打工的妈妈 你在哪儿？

（ああ 出稼ぎのかあさん どこにいるの？）

那条花格裤 裤腿变短了

（あのチェックのズボン 短くなっちゃった）

奶奶说我的个子又见长高啦

（私の背丈がまた伸びたって おばあちゃんが言ったよ）

我考了满分 老师夸我了

（100点とって 先生がほめてくれたよ）

哦, 远方的妈妈 你会知道吗?
 (ああ 遠くにいるかあさん 分かってくれるかしら?)
 都说妈妈在在哪里就是家
 (かあさんのいるところがおうちだっていうけど)
 可是打工的妈妈远在天涯
 (出稼ぎのかあさんは 空の果て)
 我多么盼望你能早点回家
 (はやく帰ってくることを どれほど待ち望んでいるか)
 我来画一幅团圆的图画
 (わたし 家族だんらんの絵を描くわ)
 在妈妈怀里
 (かあさんのふところ)
 眼含幸福的泪花
 (しあわせのなみだをうかべて)
 院中枣树 树叶又落下
 (お庭のナツメの 葉がまた落ちる)
 留守的孩子啊 又在想妈妈
 (帰りを待つ子どもが またかあさんを想っている)
 坐在门前, 不说一句话
 (門の前に腰かけ なにも話さない)
 晶莹的泪珠 一串串掉下
 (きらきらした涙の粒が ぼろぼろこぼれる)

「智慧女孩」(智慧ちゃん) というハンドルネームの女の子がひとりギターを弾きながら歌うこの曲は、留守児童の生活を優しく見つめ、子どもの気持ちをリアルに代弁しているという点で共感と呼び、評価されたのである。

20年来の不況に喘ぐ我が国を尻目に、中国は依然として高い経済成長を維持している。その中国経済の屋台骨を支えているのは農村からの出稼ぎ者である。彼らの刻苦奮闘は、確かに彼らの実家の家計を潤し、故郷の農村を豊かにしてきた。しかしその一方で子女の家庭教育は後回しにされてきたのである。

一方、出稼ぎ労働者と留守児童を取り巻く環境はこの10数年で大きく変化した。主要都市間を高速道路が繋ぎ、鉄道も高速化され、移動はずいぶん便利になった。通信手段の進歩も目覚ましい。中国における携帯電話の普及率は56.3%、総ユーザー数ではすでに7億4,700万戸に達した³⁾。この状況下、出稼ぎ労働者もほぼ例外なく携帯電話を所持しており、好きな時に故郷にいる肉親や友人と電話や短信(ショートメール)、或いは「QQ」⁴⁾と呼ばれるインスタントメッセージングソフトを通してコミュニケーションをすることができる。このように、移動手段やハイテク技術の進歩は、確かに出稼ぎ者と留守児童の距離を縮めたといえる。

しかしそれで両親の不在という現実が解消されるわけではなく、前述の歌に描写されたように、小さな子どもにとって心細く辛い体験であることに変わりはない。「距離」はここでのキーワードである。ゆえに改革開放以来、特に90年代から現在に至るまで、留守児童の教育問題は大きな社会的課題として位置づけられてきたのである。ただ幸いなことに、胡錦濤政権による「和諧社会」建設の潮流にあって、また、労働者の権利意識向上とも相まって、マスメディアが出稼ぎ労働者および留守児童の教育問題を大きくアピールしており、中国社会に彼らへの理解と思いやりの雰囲気醸成されつつある。

本研究が目的とするのは、参与観察という手法を通じて生活の場に関わりつつ、子どもや両親の自己形成史を跡付け、教育がそこに果たす役割と未来への展望を描き出す試みであり、そこに関与する人々の実際生活に即した問題解決への努力、いうなれば中国社会の良識ある人々の取り組みを掘り起こすことにある。

本稿ではその第一歩として、まず次節(2節)において、湖南省の農村における初回のフィールドワークで重要なインフォーマントとなった留守児童及び家族の生活状況について記述すると同時に、その生活の舞台である農村の概観を記述する。続く3節では留守児童の両親が出稼ぎ先においてどのような環境を生活しているのか、浙江省における調査をヒントに検証する。環境に注目するのは、親たちも出稼ぎを通してその環境を生き、環境とのインタラクションを通じて自己形成を果たしており、それは間接的に出稼ぎ者自身の子女教育観へとつながっていくと考えるからである。この観点から、4節では出稼ぎ先における親たちの平均的な教育観を割り出すために、調査対象者を広げてアンケート及びインタビューを試み、結果を簡述する。

なお、参与観察は始まったばかりである。小論は調査1年目の記録が基になっており、データ及びフィールドノートは質的にも量的にも不十分である。そのため本稿は初期報告のレベルを踏み出せない。しかし少なくとも小論により、出稼ぎ労働者の仕事は我々自身の生活と意外な部分で繋がっており、留守児童問題は遠い世界の事象ではないことが認識できるはずである。その意味では開発教育的視点からも興味深い事例となろう。

2. 出稼ぎ労働者と留守児童家庭の実際

2-1 湖南省新化县におけるフィールドワーク: J君との出会い

以上の観点に基づき、出稼ぎ労働者の留守宅において祖

父母や親戚の監護の下で学校に通う留守児童の生活状況を把握するため、筆者は2009年12月25日から2010年1月8日まで訪中し、湖南省新化县S村においてフィールドワークを開始した（S村における滞在は12月26日－1月3日迄）。

S村は人口1,130人、100戸余りの小村であるが、全人口の70%程度が他地域への出稼ぎを経験している⁵⁾。当面は科研テーマの助成期間である3年間、或いはそれ以上の長期間の参与観察を通じて、留守児童の成長過程とそこに生起する農村特有の教育的課題を追跡検証することが目的である。

この地を調査地として選んだのは次の理由による。第一に、人材供給地としての湖南省の位置づけに注目したことである。本学紀要において以前にも触れたように、2000～2002年にかけて筆者は南方の大都市である広東省広州市に滞在した。広州市は距離的な近さもあって（広東省の北隣りが湖南省である）湖南省からの出稼ぎ労働者が多い。日常生活において彼らと知り合い、省内各地の農村の生活状況を聞き取った経験から、ある程度の事前知識があったことがその理由に含まれる。

第二に、本計画を立案するにあたり、20年来お世話になっているG大学のY副教授に相談したことによる。Y副教授は湖南省西部の出身であり、以前故郷の大学で教えていたこともある。その関係で故郷には現在でも連絡を取り合っている卒業生が多く、そのうちの数名に現地調査の便宜を図ってくれるようお願いして下さったのである。このような人脈をたどって紹介いただいたのが、新化县S村に住むF氏であった。農閑期であれば先方も受け入れやすいのではないかというアドバイスもあり、ホームステイをお願いしたのである。F氏は農業の他に上水道の配管等、建築・内装関係も請け負っており、相当の収入がある。20万元以上（≒260万円以上：1元＝13円で計算。以下同



図1：厨房で調理するF氏。プロパンガスと電気のココンロがある。毎日手料理を食べさせてくれたが、宿泊費は一切受け取ろうとしなかった。

様)を費やして建てた新築（未完成建築中）の一戸建て（3階建て）に住んでおり、家にはバイク、トラクター、テレビ、大型冷蔵庫、全自動洗濯機、蒸留水のサーバー、DVDプレーヤー等が揃っている。S村では富裕層に属する。

さて、ステイを始めると、あらかじめ現地協力者（P女史：Y副教授の教え子で湖南省西部在住の大学職員）を通じてお願いしたとおり、F氏は連日筆者を親戚や友人宅に案内してくれた。そこで知り合ったのが、まずF氏の親戚（その実、この村では90%の家が同じ「F」姓である）であるJ君とその家族である。J君の家はF氏宅から歩いて10分程度の丘の中腹にある。その時ちょうどJ君の両親は出稼ぎ先から一時帰宅していたので、J君の教育状況について話をうかがうことができた⁶⁾。

J君は10歳、家から徒歩20～30分のところにある小学校に通う5年生である（2009年12月現在）。小学校高学年になり、そろそろ中学校（初級中学）への進学を考えていかねばならない時期である。このような大切な時期であるが、両親は冬季を除いて沿海省に出稼ぎに出ている。その理由を尋ねると、主に二つの答えが返ってきた。第一に子どもの学費や家族の生活費を稼ぐこと、第二に子どもや家族のために家を建て替える資金を貯めることである。J君の両親は1年の大部分を外地で出稼ぎに従事している。どうやらJ君は典型的な留守児童であることが分かってきた。筆者は持参した色鉛筆セットをお土産として手渡し、コミュニケーションを開始した。



図2：J君と両親（F夫妻）。高いテーブル式のコタツ（下に火鉢があり、木の椅子に腰かけてあたる）にあたっている。電気コタツの家も多い。

ご両親には筆者の留守児童の教育問題に対する関心や研究目的を話し、今後も継続してお付き合いさせていただいてよいか、また出稼ぎ地に行って取材してよいか尋ねたところ、快く承諾を頂いた。ここでのネットワークが次のフィールドワークに結び付くことになる。

なお、このほかにも2人の子ども及びその家族（村内

及び隣村)と知り合い、連絡を取り合っている。この子どもたちは単なる留守児童のケースではなく、親が死亡したり失踪したりという気の毒な境遇にあるもので、そこに起因する貧困問題も抱えたより複雑な事例である。これについては別の機会に詳述したい。

2-2 出稼ぎ労働者の故郷——新化县S村の環境

この村を含め、本県は国家級の貧困県に指定されている地域である。しかし今や村のなかには真新しい3~4階建ての、ビルとも呼べるようなレンガ造りの大きな家屋が多数存在し、現在建設中のものも多い。村はちょっとした建設ラッシュに沸いているのである。



図3：建築中の4階建て家屋。

これらはほとんどが出稼ぎの現金収入を貯蓄して建てたものであり、建築価格は概ね20~30万円(260万~390万円)である。ただし資金不足のためか、建設が中断しているケースもある。また、村内の各戸はいずれも複数の犬を放し飼いにしている。防犯を意識してのことだというのが、狂犬病もごく稀であるが発生するという。事前のワクチン接種の必要性を強く感じた。



図4：F氏宅のベランダから見た村の風景。水田や養魚池が広がる中に新築の住宅が点在する。

一方で、村の小学校の学習環境は良好であるとは言い難い。施設や学校備品に大きな課題が存在するのである。



図5：教室棟は比較的良好だが…



図6：「危房」と呼ばれる老朽建築物(講堂)が存在し…



図7：内部はゴミが散乱している。

小学校を訪ね、校長先生にもお話をうかがった⁷⁾。1~5年生までが学ぶこの学校は児童数数百名の小規模校である。給与の欠配・遅配こそないものの、とにかく学校予算が少なく、新しい文具やテキスト類をなかなか買うことができない。もちろん冷暖房はなく、トイレの数

も少なく汲み取り式で衛生的とはいえない。備品としてパソコンはあるものの活用しておらず、インターネットにも繋がっていない。コピー機がなく、副教材や問題プリント、連絡等を印刷することはできない。先ごろ上水道の配管工事が終わり、ようやく水回りが便利になったが、出費がかさんで大打撃である。(見学させてもらったお礼と、これからもフィールドワークでお世話になるであろうことに鑑み、去り際に水道管工事代金300円(≒3,900円)を寄付した。なお、この工事はF氏が請け負ったものである。)この農村小学校に関しては、稿を改め詳述したい。

3. 出稼ぎ労働者を取り巻く環境：浙江省義烏市の事例より

3-1 両親の出稼ぎ先

前述のように、湖南省新化县S村におけるフィールドワークの結果、例年F夫妻は浙江省義烏市にあるクリスマス用品工場に赴き臨時工をしていることが分かった。その実、この村内に住む親戚や友人数名も同じ工場で仕事をしていることも判明した。親戚や友人の口利きでオーナーに紹介してもらい仕事を得るのが一般的かつ安全・確実な求職方法なのである。



図8：湖南省新化县S村と浙江省義烏市のおおよその位置関係(ΔはS村、☆印は義烏市の位置)

そこで2010年夏のフィールドワーク(8月6日～21日)では、留守児童の学習及び生活環境に間接的に影響を及ぼし得る親たちの出稼ぎ地における労働環境と生活の様子を把握することを目的として、浙江省義烏市を調査地を選定した。

まず目標としたのがF夫妻との再会およびクリスマス用品工場をはじめとする雑貨製造工場の見学である。当

初、工場見学は容易に実施できると考えられた。じっさい今次フィールドワークの協力者(上海の大学に勤めるW教授)も比較的樂觀視していた。ところが実行に移そうと現地協力者(義烏市在住の大学生Gさん)が見学のアポイントを取ろうと動き始めると、悉く断られるのである。その理由は、調査実施前数カ月に起こった中国国内情勢の変化——日系企業はじめ外資系企業における工場労働者によるストライキの頻発である⁸⁾。

昨今の状況下、大規模な生産ラインを備えた大工場のみならず、町工場の経営者であっても労務管理には神経質になっている。そのようなときに当事国の大学教員が工場見学を要求すれば警戒されて当然であるといえる。義烏市の町工場の経営者にとっても農民工の処遇は極めて敏感な問題であり、一見の客に対してなかなか門戸を開いてはくれなかったのである。また現地に入ってから当地の新聞を縦覧して了解したことであるが、今年のクリスマス用品の受注は好調であり、調査実施時が生産活動のピークであったことも関係していたのである⁹⁾。

その実、工場見学は一か所のみ実現した。調査日程終了間際のことである。新化县S村出身の農民工J君の両親に対してお礼と再会を祝して夕食を共にしたその夜、工場を見学できたのである。すでにその工場に8年間も勤め、オーナーの信頼も厚い彼らが短時間の工場見学を許可するよう根回しをしてくれたのである。中国におけるフィールドワークは様々な制限とリスクがあるが、人間関係ひとつで突然好転することもあれば、その逆もある。人脈こそ大切であることを再確認した出来事であった。紙幅の関係で詳細な説明は省くが、仕事の様子が分かる画像を掲示していこう¹⁰⁾。



図9：12月に続き今回もお世話になったJ君の両親。工場の玄関の前で撮影。外見的にはマンションと大差ない4～5階建てのビルである。



図10: 中に入ると3~4部屋分ぶち抜きの作業場となっており、作業台や資材が配置されている。朝早くから夜遅くまで手作業を続ける。エアコンは設置していないので窓が開けられ、扇風機が回っている。ツリーの葉や枝を作る作業テーブルにて。



図11: 作業する女性工員の傍で可愛い男の子が遊んでいる。幼稚園や小学校は夏休みなので、子どもを一時的に呼び寄せ共にひと夏を過ごす親もいる。このようなことができるようになったのは、道路や鉄道の事情が以前に比べ改善し、農民の収入が増えた恩恵ともいえる。



図12: 半加工状態の資材 (ツリーの葉の部分)。



図13: 少々乱雑な置き方にもみえる。



図14: 装飾が施された完成間近のクリスマスツリー。このあと箱詰めされ、出荷される。



図15: 電気装飾を施したツリーの完成品。この若い女子工員さんともS村で面識があり、今回再会できた。

F夫妻はすでに8年間この工場に出稼ぎをしており、製作の技術やスピードも大変に速い。多い月は二人で7,000元(≒91,000円)以上の現金収入を得るのである。では、F夫妻をはじめ多くの出稼ぎ者にとって義烏市

とはどのような環境なのであろうか。次項ではその産業構造の面から把握しよう。

3-2 義烏市の労働力需要と雑貨生産・卸売業

義烏市は浙江省のほぼ中心に位置する面積1105.46キロ平方メートル、戸籍人口71.6万の地方都市である。しかし総人口となるとその1.8倍、200万人以上になるといわれている。つまり総人口のうち130万人余りは外来人口なのである¹¹⁾。地方の中規模都市ながら、ここに義烏市の特殊性がある。

義烏市は観光ルートから外れているので、一般のツーリストには馴染みのないところである。しかし装飾品や日用雑貨等の仕入れ業者や小売店経営者にとってはよく知られた都市でもある。義烏市は、市の内外で生産された「小商品」(それほど値段の張らない日用雑貨類)が流入する一大流通基地であり、取引・出荷を待つ卸売拠点として世界的に有名である。我々に身近な商品としては、100円ショップで販売される商品、ゲームセンターやスーパーの店頭で置かれる「ガチャガチャ」のコンテンツ、UFOキャッチャー等で扱われる商品や景品等が挙げられる。これらの相当部分が義烏を経由して輸入されるのである。この街で仕入れを行い、インターネットのオークション等で売りさばくことによって相当の利益を上げている個人もいる。

その取引の中核にあるのが「義烏小商品市場」である。営業面積400万平方メートル、国際商貿城、篁園市場、賓王市場の3つの大市場から構成される。常設の営業ブースは6万2千店舗、従業員数20万人、1日当たりの来客数20万人以上を有する国際的な日用雑貨の流通・情報・展示センターであり、中国最大の日用雑貨の輸出基地の一つとなっている。2005年に世界銀行およびモルガン・スタンレー等権威ある組織から「世界最大の日用雑貨卸売市場」との称号を得た。またこれらの市場の周辺には専門店街が展開し、街全体が卸売市場の様相を見せている。なんと取扱品目は170万種にも及ぶのである¹²⁾。

さて、多岐にわたる商品のなかでも、とりわけ「クリスマス関連商品」は代表的なものである。その実、義烏は世界的規模のクリスマス商品の輸出拠点であり、全世界の50%のシェアを占めている。市内のクリスマス商品を専門に取り扱う卸売商は200~300軒あり、これらの企業が有する自社工場まで含めると400個所もの事業所が存在する。毎年輸出売上高はほぼ20億元(260億円)以上に達する¹³⁾。

具体的には、豆電球や金銀の玉で美しくデコレーションされたクリスマスツリー(モミの木のレプリカ)、サ

ンタクローズ等の人形や絵、プレゼント用の小物類等である。F夫妻の勤める町工場はこの業界に属するものである。



図16：国際商貿城にあるクリスマス用品を取り扱うブース。

ここで注目すべきは、日本をはじめ先進工業諸国が安価に消費しているクリスマス商品が、実はクリスマスとは無縁の、あるいはそれほど盛大に祝うことのない(クリスマスの時期はこの業界のシーズンオフであり、労働者は実家に帰省していることが多い)中国の農村出稼ぎ者たちの手によって担われているという国際分業の実態である。その陰には冒頭の歌で提起したような心細い思いをしている子どもたちの存在がある。このことは、恐らく我が国においてほとんど認識されないことであろう。その子どもたちの存在は決して消費者の目に映ることはないのである。無論、気にする必要がないと言われればその通りである。感傷的にその文化的不均衡を訴えようというのではない。その実、中国農民もこの構造を無自覚にはあるがしたたかに利用しているのである。しかし、この点には開発教育の視点から思いを寄せる必要があろう。

3-3 出稼ぎ労働者の優遇

ともあれ、義烏市は多くの出稼ぎ労働者の集まる都市であり、彼らの労働力なくしては生産活動や都市の発展は困難であることが理解できる。この点については市政府も十分認識しており、一定の優遇策を打ち出している。それが「外来人口の地元化」政策である¹⁴⁾。

その骨子は、第一に、「出稼ぎ労働者」を意味する呼称を変更したことである。これまで出稼ぎ労働者は一般的に「外来打工者」「外来工」、「農民工」「民工」等と呼称されていた。お金を稼ぐためにやってきたアルバイト、つまり「よそ者」、「流動人口」としてのニュアンスが強かった。これを「外来建設者」と改称したのである。「建設者」と呼称することにより、我が都市建設に

積極的にかかわる「同胞」であるという尊重の気持ちを込めたと考えられる。

第二に、出稼ぎ者に対する表彰や市行政の役職への参与を求めている点も注目される。それは①「人材突出貢献賞」、「外来労働者優秀青年ベスト10」、「新義烏人ベスト10」等の表彰イベントの実施、②各民族の外来建設者を義烏市の人民代表大会の傍聴に招待、③外来建設者を市の党代表、人民代表大会代表、政治協商会議委員に選出、④義烏に比較的長期にわたって居住し、信望があり、面倒見の良い人物を吸収し、当地の治安維持、仲裁・調停、パトロール等の組織に参加させ、外来建設者のアイデンティティと融合意識を強化、等が挙げられる。これらの政策は、確かに農民工の意識と誇りを高めるに違いない。

3-4 出稼ぎ労働者の管理

しかし別の側面から見れば、これらの優遇策は続々と押し寄せる出稼ぎ労働者を管理するための方便としても機能するだろう。Fさん夫妻の働く町工場にも程近い江東街道辦事処（日本語では「区役所出張所」とも「町内会事務所」とも訳されるが、れっきとした行政の基層組織である）が2008年9月に発出した「社会の安定を維持するプロセスを実行し、調和のとれた江東を創建する」と称する2年がかりのプロジェクトはそれを如実に物語る¹⁵⁾。その「工作目标」に注目すべき記述がある。

「2008年9月から2010年9月まで、以下の目標を出来る限り実現する。

1. 管轄区内の公民の法制意識をおしなべて向上させ、法による行政を貫徹させる。
2. 集団で中央や省に陳情を行ったりせず、新旧の投書・陳情担当者は理にかなった訴えを基本的に解決する。
3. 社会の治安情勢をはっきりと好転させ、事件発生率が年を追って減少するような形勢にする。
4. 管轄区内における対立や揉め事は直ちに調停し、党と大衆、幹部と大衆との関係を融和し、隣近所仲良くし、殺人・傷害や集団での喧嘩をさせない。
5. 外来人口を規範化し管理し、居住と事業環境をより一層アップグレードする。」

これを見ると、地元行政機関は多数の外来人口の流入による市内の風紀及び治安の紊乱を警戒しており、末端行政組織及び地域コミュニティに出稼ぎ労働者を監視し管理する役割を担わせていることが理解できるのである。逆に、出稼ぎ労働者の側から見れば、常に地域コミュニティから「管理されるもの」として見つめられ続けることを意味するのであり、忠実な労働者として攻囲されることを無言の圧力として意識せざるを得ないのであ

る。親たちは、この中を生きつつ、故郷で待つ子どもの大成と自己実現を目指し奮闘しているのである。

4. 出稼ぎ労働者と子女教育観

4-1 聞き取り調査の試み

浙江省義烏市におけるフィールドワークでは、子どもを持つ出稼ぎ労働者に対するアンケート及び聞き取り調査も計画していた。労働者自身のバックグラウンドや、子女の教育に関する見方等を把握するため、あらかじめ質問項目を整理し質問票の形式に整えた。なお、都市部におけるフィールドワークも今回が初めてであるため、回答に時間のかかる詳細なものは避け、質問項目を必要最小限に限定した。

計画段階においては、まず現地協力者（義烏在住の大学生Gさん）にクリスマス用品工場（F夫の勤める工場を含め）をはじめとする日用雑貨を製造する工場を数カ所ピックアップしてもらい、その経営者及び労働者に趣旨を説明したうえで、留守児童を持つ親に限定して総計100名を抽出し、面接形式で実施する予定であった。ところが前述のような労働者をめぐる国内情勢の変化に伴う経営者の警戒に加え、生産が書き入れ時を迎えたことも影響し、経営者の協力を得ることが困難となった。

そこで現地協力者から代替案として提起されたのが、人材市場に赴き労働者へ直接聞き取りを実施する方法であった。義烏市には正式な人材市場として中国義烏人材市場（香山路389号）があるが、それ以外にも非公式な市場（労働者の集まる「寄せ場」。工場から「手配師」がやってきて直接労働者を車に乗せて工場に送り込む）が数カ所存在する。これら人材市場の門前に集まっている求職者に対してアンケート及びインタビューを試みるのである。現場における無用なトラブルを避けるため、現地協力者（家族が地元の有力者及び警察署の刑事）にそれとなく打診、このインタビュー内容なら大丈夫であろうとの感触を得た。

連日38~39度にも達する猛暑の中、日中野外で長時間活動するのは危険であるため、午前中の比較的短時間（10時~12時）集中的に実施した。まず声をかけて挨拶し、次いで身分を明かし調査の趣旨や目的を説明、子どもの有無を確認し、インタビューに移っていった。仕事を探している出稼ぎ労働者たちは大学人の聞き取り調査に概ね好意的かつ協力的であったが、中には警戒する人や、逆にインタビューに人垣ができたり、横からからかわれたり、代わりに答えてしまったり（決して悪気があるわけではない）と、若干の困難にも遭遇した。しかし

義烏滞在中に計53人に聞き取りを実施することができたのである。次の項では、まずその質問項目を提示したうえで得られたデータを提示し、その傾向を総括したい。

4-2 聞き取り調査の結果（抄録）

まず調査の基となった質問票の内容とその結果を開示する。なお紙幅の関係で日本語版（アンケート原稿）のみ掲示し、結果については重要な数値を提示したうえで若干の解釈を加えるのみとし、詳細な数値の提示・図表化及びその分析は稿を改めて行うこととする。

4-2-1 質問票

【資料2】

外来建設者に対するアンケート

このアンケートの結果は私（登坂学）が自己の研究論文作成及びその発表のためにのみ使用するものであり、ここで知り得た情報は、上記の目的以外に使用しないことを誓約いたします。

Q1.あなたの性別・年齢は？

男 女 () 歳

Q2.あなたの出身省・市・県は？

() 省 () 市 () 県

Q3.あなたの家族は何人ですか？

() 人

Q4.あなたの家族構成は？

() () () () ()

Q5.あなたの学歴は？

() 卒業・中退

Q6.あなたの月収は？

() 元

Q7.あなたのひと月当たりの実家への仕送り額は？

() 元

Q8.子どもの数・性別・年齢・在学状況は？

	性別	年齢	在学状況 (何年生?)
1			
2			
3			

Q9.子どもを義烏に連れて来ていますか？

はい いいえ

(連れてきている場合)

Q10-1.子どもの学校の成績についてどう認識していますか？

とても良い どちらかといえば良い 普通

どちらかといえば悪い 悪い

Q10-2.子どもの学校における人間関係はどうですか？

とても良い どちらかといえば良い 普通

どちらかといえば悪い とても悪い

Q10-3.学校の先生の対応には満足できますか？

とても満足 どちらかといえば満足 普通

どちらかといえば不満 不満

(連れてきていない場合)

Q10-1.どれくらいの間隔で帰省しますか？

() か月に1回 または () 年に1回

Q10-2.主に誰が面倒を見ていますか？（複数回答可）

() ()

Q10-3.子どもの情緒は安定していますか？（どれかに✓を）

とても安定 どちらかといえば安定 普通

どちらかといえば不安定 不安定

Q10-4.子どもの学校の成績についてどう認識していますか？

(どれかに✓を)

とても良い どちらかといえば良い 普通

どちらかといえば悪い 悪い

Q10-5.子どもの学校における人間関係はどうですか？

(どれかに✓を)

とても良い どちらかといえば良い 普通

どちらかといえば悪い とても悪い

Q10-6.学校は留守児童に対して特別の支援を行っていますか？

(どれかに✓を)

行っている 行っていない 分からない

Q10-7.先生は留守児童に対して特別の配慮をしていますか？

(どれかに✓を)

している していない 分からない

Q10-8.地元政府は留守児童に対する支援を行っていますか？

している していない 分からない

Q11.子どもにはどのくらいの学歴を望みますか？

初中卒業 高中卒業 大学卒業 碩士卒業 博士卒業

Q12.子どもの教育でいま悩んでいることはありますか？また、

子どもに希望することはありますか？（自由口述）

Q13.あなたは何かを作っていますか？

(あなたはどのようなサービスに従事していますか？)

また、この商品を使う人に、なにかコメントをお願いします。

(このサービスを受ける消費者になにかコメントをお願いします)

(自由口述)

ご協力ありがとうございました！

4-2-2 聞き取り調査の結果と若干のコメント

Q1については、アンケート及びインタビューに応じたのは計53人（男29人、女24人）であり、平均年齢は34.1歳であった。子育て中であろう比較的若い層が出稼ぎに来ていることが分かる。

Q2については、江西省19人、河南省11人、貴州省6人、四川省5人、安徽省3人、浙江省2人、湖南省2人、

重慶市（元四川省の都市で現在は中央直轄市）2人、湖北省1人、雲南省1人、江蘇省1人であった。地理的に近く、内陸部にある江西・河南の両省が最も多かった。西南奥地の「出稼ぎ省」貴州・四川も一定数見られた。

Q3については、3人家族が12人、4人家族が17人、5人家族が13人、6人家族が9人、7人家族が1人であり、4人家族が最も多かった。

これに関連し、Q8では子どもの数を数・年齢・就学状況を尋ねている。まず、子どもの人数については、一人っ子が22人、二人が24人、三人が7人であった。計画生育（一人っ子政策）が農村部では必ずしも順守されていない現実が確認できた。子どもの平均年齢は9.3歳であった。就学状況については、留守児童の数を学校別にみると、未就学が8人、幼稚園が25人、小学校が34人、中学校が10人、高校が5人、社会人（アルバイト・出稼ぎ、無職等も含む）が8人であった。小学生の留守児童を持つ親が多いことが確認できた。

前後するが、Q5では出稼ぎ労働者の学歴について聞いている。内訳は、学歴なし1人、小学中退が7人、小学卒が10人、初中（初級中学＝中学校）中退が2人、初中卒が27人、高中（高級中学＝高等学校）中退が1人、中専（中等専門学校）卒1人、高中高校卒が4人であった。先行研究も明らかにしていたように、出稼ぎ労働者層には中学校レベル卒業者が最も多いことが確認できるほか、農村部のこの世代には、現在では九年制義務教育として整備されている課程を修了していない人も少なからずいる現実を把握できる。

Q6の月収については、現在の仕事またはこれまで就いていた仕事の収入を尋ねた。出稼ぎという不安定な雇用形態ゆえ、「〇～〇元くらい」と幅のある回答が多かった。その場合は中央値をとって計算した。平均収入額は1,780円（23,140円）であった。出稼ぎが初めてで、現在求職中のため収入ゼロの人もいた。

収入に関連しQ7では実家への仕送り額を聞いた。一か月当たりの平均仕送り額は888円であった。

Q9は子どもが留守児童であるか否かを問うもので重要な意味を持つ。53人の回答者のうち、義烏に子どもを連れてきている出稼ぎ労働者は15人（28.3%）、子どもを実家に残している人は38人（71.7%）であった。出稼ぎ労働者の子女のための学校等が比較的整備されているといわれる義烏市であっても、子どもを連れてきていない（＝留守児童がいる）人が多い。

以下は留守児童をもつ出稼ぎ労働者を中心にみていこう。Q10-1については帰省する頻度を聞くものである。最も多かった回答が「1年に1回」で18人、次いで「半

年に1回」で8人、以下、「3か月に1回」6人、「2年に1回」4人、「3年に1回」1人であり、驚いたことに「10年に1回」という人も1人いた。

Q10-2は留守児童の面倒を誰が見ているか複数回答可で聞くものである。「(父方の) 祖父及び祖母」を挙げるものが最も多く19人、「(父方の) 祖母」を単独で挙げたのが7人、「(母方の) 祖母」を単独で挙げたのが4人、「(父方の) おば」を挙げたのが3人、「母」が3人、「(父方の) 祖父」を単独で挙げたのが1人、「自力更生」と回答したのも1人いた。ここから、出稼ぎ労働者の多くが留守児童の世話を「おばあちゃん」に頼っていることが確認できる。また、この結果からは両親とも子どもの傍らにいないこともうかがわれるのである。

Q10-3は留守児童の情緒について尋ねるものであるが、あくまで保護者の主観である。「とても安定している」は7人、「どちらかと言えば安定」は17人、「普通」は5人、「どちらかと言えば不安定」は5人、「不安定」は4人であった。「不安定」と答えたある父親は「両親が不在でどうして情緒が安定するだろう」と述べた。

Q10-4は子どもの成績について尋ねるものであるが、小学校以上の子どもを持つ親に限定して回答を求めた。「とても良い」は1人、「どちらかと言えば良い」は9人、「普通」は13人、「どちらかと言えば悪い」は0人、「悪い」は4人、「分からない」は1人であった。

Q10-5は学校における人間関係（主に友人関係）を尋ねるものである。「とても良い」が9人、「どちらかと言えば良い」が16人、「普通」が1人、「どちらかと言えば悪い」「とても悪い」は共に0人、「分からない」が7人であった。概ね良好であるが、離れて暮らしているため幼稚園や学校における状況が分からないケースがあるようだ。

Q10-6は幼稚園や学校の留守児童に対する特別な支援や配慮の有無を聞くものである。「行っている」は7人、「行っていない」は24人、「分からない」は3人であった。行っている内容を尋ねたところ、学費の免除や心理相談等が挙げられた。Q10-7もほぼ同様の結果である。

Q10-8は地元政府の留守児童に対する支援の有無を聞くものである。「している」は6人、「していない」は22人、「分からない」は6人であった。支援の内容としては、貧困学生への補助、学費減免、成績上位者への学費免除等があった。

Q11からは回答者（＝子どもを持つ労働者）全員に対する質問である。子どもにどの程度の学歴を望むかとの問いに対し、「中学校卒業」が3人（5.7%）、「高校卒」が12人（22.6%）、「大学卒」が26人（49.1%）、「修士

修了」が0人(0%)、「博士修了」が11人(20.8%)、無回答が1名(1.9%)であった。出稼ぎ労働者自身の平均的な学歴が中学卒であったことを考えると、子どもには自分より高い学歴を望んでいることが見て取れる。大学への進学を期待している親が多いほか、博士となつてほしいという親も相当数見られ、期待の大きさがうかがわれる。学歴が低いために苦労している自分のようにはなつてほしくないと言者に話す労働者もいたことが忘れられない。

Q12は教育上の悩みや子どもへの期待を自由に述べてもらう項目である。ここでは留守児童の教育に関する悩みについて若干数紹介する。

-
- ・子どもがやんちゃで、言うことを聞かないこと。
 - ・一緒に生活できない、子どもを連れてこられず世話ができない。悪いことを覚えるのではないかと心配。
 - ・教育環境、家庭環境が心配。
 - ・幼稚園でしっかり食べさせてもらっているか、しっかり面倒見てもらっているか心配。
 - ・義烏では入学が難しいこと。
 - ・一般学校は出稼ぎ労働者の子どもを受け入れない。かといって私立学校の学費は高すぎる。
 - ・学費が高いこと。教育費が足りないこと(毎学期400~500元が必要)。学校の雑費の請求が多すぎること。
 - ・農村の教育水準が低い、学校教育の程度が低いこと。
 - ・祖父母の教育方法が適切でない、甘やかすすぎる。
 - ・まじめに勉強しないのが心配。
 - ・子どもが勉強できない。飲み込みが悪い。授業についていけない。
 - ・インターネットに嵌っていること
 - ・無駄使いすること。忍耐と勤勉さが足りないこと
 - ・子どもの安全、セキュリティの問題。
 - ・学校や社会の風紀が悪い。
 - ・学校が農村教育を重視していない点。
 - ・先生の質が悪く、体罰があること。管理が行き届かないこと。教育理念が違うこと。
-

教育上の悩みを語る親たちの口ぶりからは、一様に自分が子どもに寄り添うことができない不安感、面倒を見たり、勉強するよう督促・激励したりすることのできない焦燥感が伝わってくる。子どもの面倒をみてくれる祖父母に感謝しつつも、その生活指導や教育方針には懐疑的な親が多い。都市と比較した農村教育の水準を嘆く親も多い。出来るなら子どもを連れてきてこの地で通学できないかとも考えている。しかし大部分の人が現在の境

遇に甘んじるしかない現実がある。そして今日もまた新たな留守児童が生まれるのである。

5. おわりに

以上、2009年冬から開始した農村と都市におけるフィールドワークを基に、留守児童の暮らす農村、親の出稼ぎ先の状況を概観し、その生活に出来る限り密着する中から親と子どもの自己形成過程を探るべく、最初の一歩を記述してきた。フィールドワークは普通1~2年或いはそれ以上現地に居住して行われる。その場合でも最初の数カ月~1年はまず周辺の人間関係を構築しそのコミュニティに馴染むことに費やされる。今回の2週間にも満たぬ現地滞在で現地インフォーマントとの間に確固たる信頼関係を築くことができたとは思っていない。次回以降の参与観察では、今回の基礎の上に、S村の小学校における学習史や友人関係、その後の進路選択に注目する中からJ君の自己形成史に注目していきたい。

お金をたくさん儲けて立派な家を建てたい。現金収入を得て豊かな生活を享受したい。将来子どもに良い教育を受けさせたい。これらの思いはほぼすべての出稼ぎ労働者に共通する願いである。しかし、皮肉なことに両親の不在により今現在の子育てが後回しにされ、これが都市住民と農村住民の教育格差を更に広げる一因となっている。これを挽回する鍵は、矛盾であるがやはり出稼ぎ労働者自身のモチベーションに存するのかもしれない。後は国家や地方政府がどれだけ留守児童に対する実質的な支援を行うかであろう。

小論を纏めている今この時にも、東シナ海に激しい風波が起り、両国を隔てる天空には暗雲が垂れ込めている。情報化時代において、我々は瞬時に伝わり来る情報に一喜一憂し、振り回されることになる。パワーエリート主導する中国外交の強硬な一面のみに目を奪われ、中国人全体を短絡的に判断することは厳に慎まねばならない。国と国との間に何が起ころうとも老百姓(=庶民)の日常生活は続いていくのである。

謝辞

本稿は文部科学省科学研究費補助金を受けた研究テーマ「中国農村における留守児童と教育格差に関する研究」(挑戦的萌芽研究:21653095)の取り組みの一つである中国農村及び都市へのフィールドワークをもとに執筆したものである。そもそもこのフィールドワークは現地協力者の貢献がなければ実現不可能であった。心から御

礼申し上げる。(諸般の事情を考慮し本稿において実名を挙げるのを差し控える)

註

- 1) 当該曲「留守の子」は、中国系の動画投稿サイトで視聴することができる。例えば、下記を参照のこと。
<http://v.ku6.com/show/PnPR2onTkoFx2462.html?ptt-1-p1-ddetail>
 この曲以外に「爸爸的城市(父さんのいる都市)」等も出稼ぎに出た親を想う子どもの心を歌っている。
<http://v.ku6.com/show/LniGYL8tSo4N94gK.html?ptt-1-p1-ddetail>
 これらの曲は彼女自身のブログ「智慧女孩的博客(下記リンク参照)等において発表され、音楽愛好者との交流が続いている。以下の動画サイトを参照のこと。
<http://you.video.sina.com.cn/yangzhihui778>
<http://yangzhihui.zone.ku6.com/>
<http://v.ku6.com/yangzhihui>
 (以上のリンクはすべて2010年8月23日アクセス)
- 2) 邦題及び歌詞は筆者による訳であり、必ずしも語彙や文法に忠実ではなく、筆者なりの解釈が含まれている。
- 3) 「2009年电子信息产业经济运行公报」中华人民共和国工业和信息化部ウェブサイト、2010年2月3日発表。
<http://www.miit.gov.cn/n11293472/n11293832/n11293907/n11368223/13007050.html>
- 4) このメッセージソフトはアカウント数9億個以上を誇る中国で最も人気のあるものである。詳細は公式ウェブサイト参照のこと。<http://im.qq.com/>
- 5) 2009年12月26日、S村におけるホストファミリー主人F氏への筆者の聞き取りによる。
- 6) 2009年12月27日、S村におけるJ君及びF夫妻への筆者の聞き取りによる。
- 7) 2009年12月30日、S村における学校訪問及び校長先生への筆者の聞き取りによる。
- 8) 「中国スト7割、日系企業で 外資43社、ホンダ系から連鎖」朝日新聞(朝刊)、2010年7月30日1面。
- 9) 「同比增幅超100% 今年义乌圣诞用品销售形势火爆」浙商网ウェブサイト、2010年8月14日、
<http://biz.zjol.com.cn/05biz/system/2010/08/14/016847503.shtml> (2010年8月16日アクセス)
- 10) 2010年8月18日、義烏市のクリスマス工場見学及び聞き取りによる。
- 11) 「城市人口」中国义乌(政务版)ウェブサイト、
<http://www.yw.gov.cn/glb/ywgl/csrk/> より。
 (2010年9月29日アクセス)
- 12) ここまで、義烏の卸売市場については次のサイトを参考。「义乌小商品市场简介」中国小商品城网ウェブサイト<http://www.onccc.com/marketintro/index.html> (2010年9月17日アクセス)、また日本語のサイトでは、株式会社AiOのサイトを参照。<http://aio-inc.com/> (2010年9月18日アクセス)
- 13) 「圣诞老人如期到义乌」中国义乌(概览版)ウェブサイト、2010年4月22日
http://www.yiwu.gov.cn/glb/ywgl/ywkwf/2009/jwmtkyw/201004/t20100422_263189.html より。
 (2010年8月23日アクセス)
- 14) 前掲「城市人口」中国义乌(政务版)ウェブサイト
<http://www.yw.gov.cn/glb/ywgl/csrk/> より。
 (2010年9月18日アクセス)
 これまで農民工は「農民工」「民工潮」「流動人口」等と様々に呼称されてきたが、近年、「外来建設者」という呼称が提唱され、マスメディア等で使用されつつある。これは国家建設のために多大な貢献をしている労働者に対するリスペクトを社会全体で醸成したいとする現政権の「和諧社会」路線の表れであるとも考えられる。管見の限りでは、義烏や深圳といった出稼ぎ労働者の多い都市で常用されている。
- 15) 「关于实施维护社会稳定工程、创建和谐江东的意见」江东街道办事处ウェブサイト、2009年4月13日、
http://jdjd.yiwu.gov.cn/108/02/01/200904/t20090413_185200.html (2010年9月27日アクセス)